

地図帳から見る大航海時代

佐賀大学文化教育学部附属中学校 中山孝史

1 はじめに

ジョニー・デップが主演した映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」が日本でもヒットした。それより時代はやや遡るが、「大航海時代」という言葉には、何となくロマンを感じる。それはおそらく、冒険や探検を通して、未知なるものとの出会いがあったからであろう。しかし、実際はどうだったのか。ここでは、地図帳を利用した「大航海時代」の授業について述べてみたい。

2 授業の流れ

(1) 「コロンブスの卵」とは何だろう。

・コロンブスは、ゆでた卵の底を割って立てたという逸話がある。

(2) 中世ヨーロッパの人々は、世界をどのようにとらえていたのだろうか。

・世界はエルサレムを中心とした丸く平らな陸地であると考えられていた。

(3) コロンブスの航路をたどってみよう。

・トスカネリの地球球体説を信じたコロンブスはスペインを出発し、西へ向かった。

(4) コロンブスが到達したところはどこだろう。

・西インド諸島のサンサルバドル島。

(5) なぜ、ここにインドという言葉が使われているのだろうか。

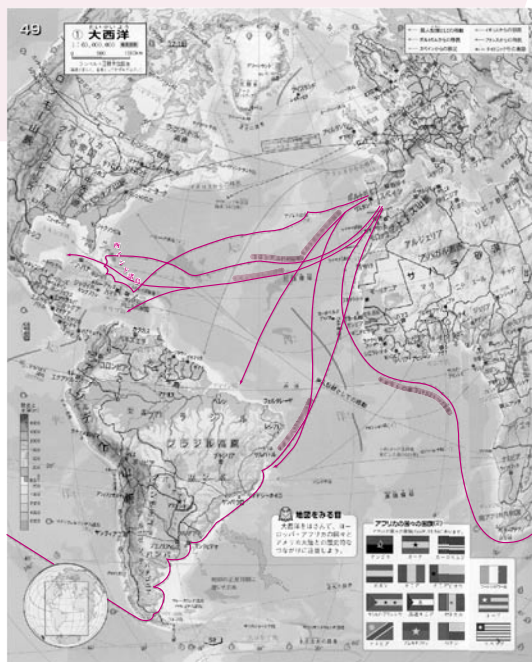
・コロンブスがインドと思い込んだから。

(6) なぜ、インドをめざしたのだろうか。

・肉の保存や調理に欠かせず、金と同じくらい高価だった香辛料を、イスラム商人を介することなく手に入れるため。

(7) コロンブスの後、西回りで世界を一周したのはだれだろう。

・マゼランとその部下たち。これにより、



「中学校社会科地図 初訂版」p.49

地球球体説が実証された。

(8) ポルトガルやスペインからの移民は、どこをめざしたのだろうか。

・トルデシリャス条約により、ポルトガルはブラジル、スペインは中南米。

(9) なぜ、黒人はアフリカから新大陸へ移動したのだろうか。

・奴隷として運ばれた。

(10) スペインは新大陸でどんなことを行ったのだろうか。

・アステカ、インカ帝国を滅ぼし、インディオや黒人奴隷に強制労働をさせ、その利益で繁栄した。

3 おわりに

新大陸の存在が明らかになり、ポルトガルとスペインを中心とした国々によって、環大西洋世界がつけられていく。そして、メキシコではスペイン語、ブラジルではポルトガル語が公用語であるように、「大航海時代」の名残が今に息づいている。